



<https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

強皮症

版 2016

1. 強皮症とは？

1.1 強皮症とはどんな病気ですか？

強皮症（scleroderma）とはギリシャ語で"硬い皮膚"という意味です。皮膚は光沢を帯び、硬くなります。強皮症には限局性強皮症と全身性強皮症の二つの異なる型があります。

限局性強皮症では、病変は皮膚と皮下組織に出現し、眼のブドウ膜炎や関節炎をおこすこともあります。皮膚所見では斑点状(モルフェア)や硬い帯状(線状強皮症)を呈することがあります。

全身性強皮症では、病変は広範囲にみられ、皮膚だけではなく内臓にもあらわれます。

1.2 頻度はどれくらいですか？

強皮症は稀な疾患です。1年間に発症する頻度は人口10万人あたり3人以下です。小児では限局性強皮症がほとんどであり、女児に多く、全身性強皮症は全体の10%未満にすぎません。

1.3 原因は何ですか？

強皮症は炎症性疾患ですが、炎症を引き起こしている原因は不明です。おそらく、免疫機能が誤って自分自身の組織を攻撃してしまう自己免疫疾患だろうと考えられています。その炎症は腫れや熱感を生じ、さらには線維組織の過剰な生産・蓄積を引き起こします。

1.4 遺伝しますか？

これまで遺伝性は明らかにされていませんが、家族内の発症が数例報告されています。

1.5 予防はできますか？

予防法はありません。あなたが親や患者だとしても強皮症の発症を防ぐために行えることは何もなかったのです。

1.6 感染しますか？

いいえ、感染しません。いくつかの感染症が強皮症の発症の引き金になっているかもしれませ

んが、病気自体は感染症ではないので、他の子から隔離する必要はありません。